

マンゴーの加温ハウス栽培における秋季の夜間冷房による発蕾期の早進化

秋季のヒートポンプによる夜間冷房は、発蕾期の早進化に効果的

背景・目的

- ・マンゴーの発蕾には一定期間の低温が必要
- ・10～11月の気温が高い場合、発蕾期が遅延し、結果として、収穫期が遅延
- ・ヒートポンプ夜間冷房による発蕾期の早進化に期待

成果の内容

9月下旬から10月中旬: 15°C, 10月中旬以降10°Cの設定で、
ヒートポンプ夜間冷房

- 夜間冷房により発蕾期(発蕾枝率80%)が早進化
10～11月の気温が平年並みの場合: 4日程度
10～11月の気温が平年より2°C高い場合: 30日以上

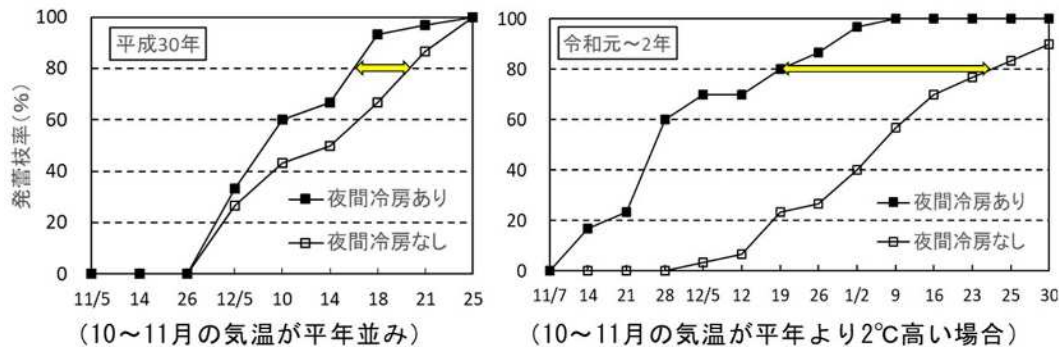


図 加温ハウス栽培における発蕾枝率に及ぼす夜間冷房効果

導入メリット

	12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
夜間冷房あり	[発蕾] → → [開花期] → → → → → → → → → → [収穫期]																				
夜間冷房なし	[発蕾] → → [開花期] → → → → → → → → → → [収穫期]																				

ヒートポンプにより夜間冷房した場合の発蕾から収穫までのイメージ ※単価: H29～R1, 経済連データ

- 夜間冷房により、発蕾期が早進化→収穫期も早進化
- 10～11月の気温が高い場合、発蕾期の早進効果大
- 発蕾期の早進化により、高単価期の出荷量増加



発蕾期の早進化により、収穫期が早まり、高単価期の出荷量増加

期待される効果

秋季の気温に左右されないマンゴー発蕾期の早進化

普及対象・範囲 加温ハウス栽培マンゴー生産者